

# 明治大学物語

## 『関東の雄やっ和日本一に！！』

体育会拳法部OB 清水 博 昭和43年農学部卒業



昨年11月25日(日)夜、一本の電話が、体育会拳法部の後輩、神戸の山口君からかかって来た。「本日大阪府立体育館にて我が明治大学拳法部が、第57回全日本学生拳法選手権大会(7人メンバー団体戦)で6年ぶりに8回目の優勝をしました」と

聞き電話を切った。

『45年前の記憶が甦って来た。明治大学4年生の秋(昭和42年11月19日(日)第12回全日本学生選手権大会)、同期生倉茂正顕君の声「やったあ!日本一!」歓喜涙と共に異様などよめきが、興奮の坩堝(るつぼ)と化した旧大阪府立体育館の館内に衍(こだま)した。関東の学生が、関西において初めて優勝した瞬間であった。日本拳法は、大阪の澤山勝先生が昭和7年に武道として創始し、西高東低にて長らく関東の学生が優勝させてもらえなかった経緯があった。』

私達が明治大学へ入学した昭和39年は、東京オリンピックであのアベベ選手が走った甲州街道の横に、拳法部が練習をしていた和泉校舎の剣道場があった。ちなみに日本拳法とは、防具付で、



拳法の型演武

打つ、蹴る、投げる、逆技(注1)有りの武道でありスポーツである。卒業する昭和43年3月までの濃厚(熱い厚い敦くて濃い濃密)な4年間、青春の多感な時代に、汗を流して腕を磨き、どつき合いをしていた。当時鬼

のようであった監督や多くの先輩が、試合の前になると必ず練習を見に来るので、一段と厳しい練習になった。また練習の後には、先輩方に「ごっつあん」になったことや、明大前の駅まで歩いていく途中にある両側の麻雀荘、駅前の食堂のおばちゃん、駅裏の喫茶店のかわいい娘さん等々…。

当時は、自分達の方で日本一になっていたと思っていたが、月日が経ち年数を重ねてくると、あの時の先輩方や監督のおかげである(今思えば、先輩方も20代、30代前半であり、時間も給料も大変な時期)、また先生や後輩のおかげであったとの思いがしきりである。我々同期生13名卒業生を代弁して、あらためて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。良い学校、良い先輩、良い友・後輩に…バンザイ。注1:逆技とは関節技のこと。



昭和42年 日本一になった時